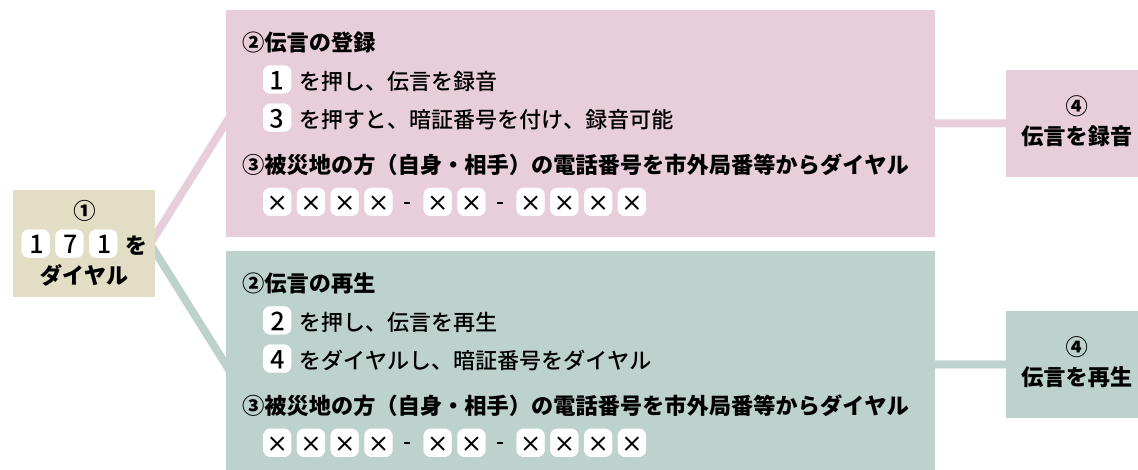


大切な人たちの連絡に

災害時には電話などがつながりにくくなります。大切な方たちとの連絡や安否確認には『災害用伝言ダイヤル(171)』『災害用伝言板』『災害用伝言板(web171)』を利用してください。

災害用伝言ダイヤル

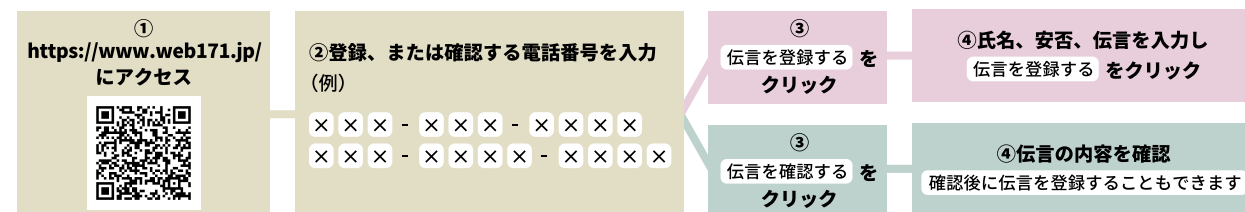


災害用伝言板

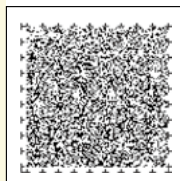
携帯電話のインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、携帯電話番号をもとにして全国から伝言を確認できます。詳細は、運営している携帯電話各社のホームページなどでご確認ください。

災害用伝言板(web171)

パソコンやスマートフォンなどから固定電話や携帯電話の電話番号を入力し、伝言の登録、確認を行うことができます。



※災害時には携帯電話がなかったり、電池が切れてしまうかもしれません。必要な連絡先は、市が発行している「わが家の防災マニュアル」の裏表紙に掲載している『マイ避難カード』などで、普段から財布に入れるなど持ち歩いていると、いざというときにも連絡をとることができます。



令和7年(2025年)3月 発行
発行 富士吉田市企画部安全対策課富士山火山対策室
〒403-8601 富士吉田市下吉田六丁目1番1号
TEL 0555-22-1111 FAX 0555-22-1030

監修 山梨県富士山科学研究所 研究管理幹 吉本 充宏 氏



本書は防衛省の調整交付金事業で作成されています。



富士山火山噴火 避難確認表

避難対象エリア・避難時期(溶岩流・大きな噴石・火砕流)

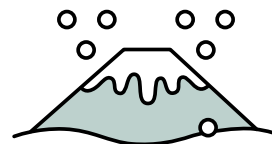
- ①避難対象エリア欄：ご自宅などがどの避難対象エリアになるか、14～35ページの『避難対象エリア等地区別マップ』または付属の『富士山火山防災マップ』で確認し、記入
 - ②避難時期欄：「いつ避難するか」8ページを確認し、記入
 - ③自主的な分散避難場所欄：9ページを確認し、検討。実施する方は避難する親戚・知人宅などを記入
- ※自主的な分散避難は噴火警戒レベル3の間までに実施

避難対象エリア	避難時期	自主的な分散避難場所

融雪型火山泥流(富士山の積雪期)

- ①付属の『防災マップ』で影響範囲内か確認
- ②自宅などが影響範囲にある方は○を記入

融雪型火山泥流の影響あり・なし



- ③影響範囲内・近辺の方は、富士山ハザードマップ(融雪型火山泥流・危険度)や富士山火山避難基本計画(資料編)48・49ページなど、事前避難(噴火警戒レベル4)が必要な区域などを示したマップがあるので、確認
 - ④地域により事前避難または垂直避難。市などからの情報にも注意
- ※富士山の積雪量により影響範囲も変わりますので、火山活動が高まった際には影響範囲外の方も含め、市などからの情報に注意してください。

降灰後土石流

- ①付属の『防災マップ』で影響範囲内か確認
- ②自宅などが影響範囲にある方は○を記入

降灰後土石流の影響あり・なし



- ③影響範囲内・近辺の方は、降雨などの際には市などからの情報に注意し、早めに避難
- ※火山灰が堆積した際には、噴火後も長年にわたり注意が必要になることもあります。

降灰

- ①原則自宅や近隣の頑丈な建物に屋内避難
 - ②溶岩流が流下する場合などの緊急時や家屋に『ゆがみ』『きしみ』を感じたときには避難所などへ避難
- ※屋内避難に備えて、事前に7日分の食料など、屋内避難できる備蓄を準備してください。

※仕事や学校などで家族が離れているときに噴火が発生することもあります。落ち合う場所など家族で話し合いをしておきましょう。

